

Casting  Our Eyes
on the Future

視線はまっすぐ未来へ



Financial Report

第 88 期 年 次 報 告 書

平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日



Ahresty

株式会社 アーレスティ

証券コード：5852



Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アーレスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアーレスティ自身の未来へ向けられ、Research (研究・開発)、Service (サービス)、Technology (技術)において常に主導的リーダーに立ち前進しようという企業姿勢を具現化したものです。

なお、“Casting”は、“投げかける”という意味の他に、当社の主要事業である“Die Casting”の意味も込めています。

タグライン：タグラインは、アーレスティブランド、企業理念を社内外へ発信する究極的なメッセージであり、コーポレートシンボルとセットで使われる言葉です。

(a:resti)

これからは、より質の高い
Research, Service, Technologyを
追求していきます。

アーレスティはR・S・T、Research、Service、
Technologyこれらの三つの言葉の統合ですが、
Rは単に研究・開発だけでなく、
どうしたらもっとお客様のお役にたてるかの創意と探求、
Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、
お客様とのすべての接点で、
そしてTはこのRとSをささえる知識と
技術を考えています。
この社名に込められた企業理念を大切に生かし、
様々な製品を通して、
広く社会のお役に立ちたいと願っております。

CONTENTS

株主の皆様へ	2
経営基本方針	3
コンプライアンス基本方針	4
環境方針	4
事業の概況	5
事業別の概況	6
連結財務諸表	7～8
株式情報・会社の概要	9
株主メモ	10

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申しあげます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

ここに、第88期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)の事業の概要につきまして、ご報告いたします。

今後とも事業の発展に全力を尽くしてまいる所存です。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申しあげます。

平成21年6月



代表取締役社長

高橋 新

経営
基本方針

常に生きいきと活動し理論と実験と創意と工夫を尊重して、
品質のすぐれた製品と行き届いたサービスを提供しよう

(1) 経営の基本方針

当社の社名アーレスティは、ResearchのR、ServiceのS、TechnologyのTを続けて読んだものであります。Researchとは絶えることのない新技術・新市場・新しい販売方法の開発・研究調査、Serviceとは人と人とのふれあいのなかで本当に行き届いた温かいサービス、Technologyとは世の中に役立つ真によいものをハードとソフトも含めて創ってゆく技術を意味します。このRとSとTは、お互いに深く支え合いながら、お互いをよりすばらしいものへと磨きあっていくという有機的な関係にあります。私たちは、このような考えのもとにResearch、Service、Technologyを統合した思想を企業理念として「アーレスティ」を社名としております。

当社の長期的な経営の方向性を示した「アーレスティ10年ビジョン」では「『すべてのステークホルダーから信頼されるグローバルトップ企業』をめざす」ことを基本の方針とし、顧客・株主/投資家・従業員・取引先・社会の5つの利害関係者の視点に立って「信頼される企業」となるためにはどうすべきかという観点であるべき姿を描き、具体的な指針・手段として方針を定めております。この10年ビジョンをベースに中期経営方針（0810 3ヵ年アーレスティ方針を昨年の米国に端を発した金融危機以降の厳しい経営環境下における勝ち残り、来るべき需要回復期に向けた体質改革を中心とした0910 2ヵ年アーレスティ方針として見直しています。）では、より具体的な施策・目標値を設定し、更に部門方針へと展開して全社的な活動を推進しております。

(2) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主をはじめとする全てのステークホルダーに対する経営責任と説明責任を明確にするとともに、高い透明性を伴った経営体制を確立することで、当社グループ全体での収益力の拡大と企業価値の増大を目指しております。さらには内部統制システムとリスク管理体制を充実させ、グループ

子会社の事業活動についても管理・監督を行う経営システムの構築を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方針と考え、重要な経営課題であると認識しております。

コンプライアンス基本方針

株式会社アーレスティは、コンプライアンスの基準として、この基本方針を制定し役員および従業員は、自らの行動または業務遂行のための行動において、これを遵守します。

- 1 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- 2 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- 3 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- 4 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- 5 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- 6 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- 7 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- 8 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。
- 9 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動します。
- 10 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。

環境方針

かけがえのない地球を守るのは私たちの大切な役割です。株式会社アーレスティの環境への取組みをご紹介します。

- 1 私たちは私たちの開発、生産、販売、廃棄の活動が地域環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、環境目的・目標・実施計画を定め、それらを必要に応じて見直し、環境保全活動の継続的な改善をはかります。
- 2 私たちは国・地方公共団体・利害関係者などの環境規制、規則、協定などの要求事項を順守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に取組みます。
- 3 私たちは特に次の事項について優先的に活動し、環境保全と汚染予防に取組みます。
 - ①大気汚染、水質汚濁に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。
 - ②廃棄物の再資源化100%を維持します。
 - ③廃棄物総排出量の減量、アルミリサイクル事業の拡大を推進し、循環型社会へ貢献します。
 - ④CO₂排出の抑制をはかり、地球温暖化防止への配慮をします。
 - ⑤環境に配慮した製品および商品の開発・設計に取組みます。
- 4 私たちは従業員一人ひとりの環境保護意識の向上をはかるため、教育・啓蒙活動を継続的に行います。
- 5 私たちは良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。

～私たちはこの環境方針を社内外を問わずに公表いたします～

事業の概況

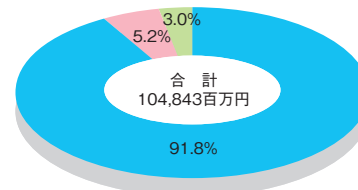
■企業集団の事業の経過および成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、年度前半までは原油価格、原材料の高騰に伴うコスト増を背景に企業収益が落ち込み傾向でありました。年度後半からは米国大手証券会社リーマン・ブラザーズの破綻に端を発する金融危機が实体经济に深刻な影響を及ぼし、輸出の大幅減少、設備投資の減少、雇用・所得環境の悪化も加わり、鉱工業生産高は過去最高の落ち込みとなりました。海外においては、米国は金融・信用不安が深刻化したことから、雇用の急速な悪化や、個人消費の大幅な落ち込みにより景気後退が急加速しました。欧州経済もリーマン・ショック以降、景況感が急激に悪化しました。

このような環境の中で、当社の受注も国内外自動車メーカー等の大幅な減産により激減したことから売上高は大幅な減収となりました。受注減少に応じた生産体制への移行や経費削減等の施策を進めてまいりましたが、減収の影響により損益についても悪化しました。

当連結会計年度の業績は、売上高104,843百万円(前年同期比19.0%減)、営業損失2,665百万円(前年同期は営業利益5,821百万円)、経常損失4,265百万円(前年同期は経常利益6,185百万円)、また、一部資産についての減損損失、繰延税金資産の取崩しなどにより、当期純損失6,772百万円(前年同期は当期純利益3,363百万円)と減収減益となりました。

■事業別売上の状況

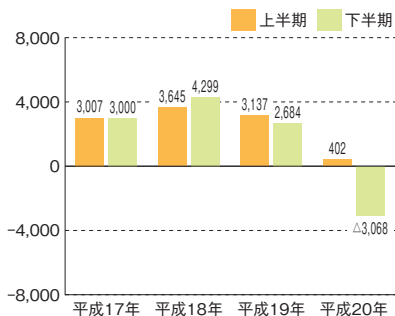


ダイカスト	96,278百万円
アルミニウム	5,484百万円
完成品	3,080百万円

■業績の推移 (連結)

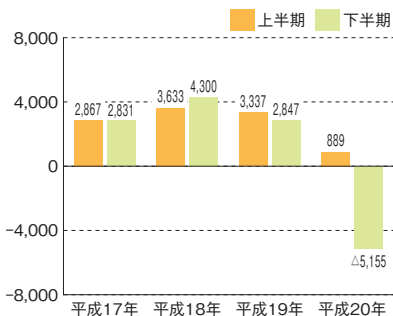
■営業利益

(単位:百万円)



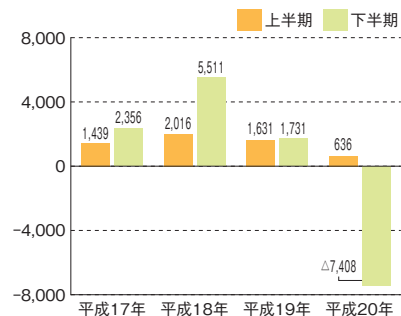
■経常利益

(単位:百万円)



■当期純利益

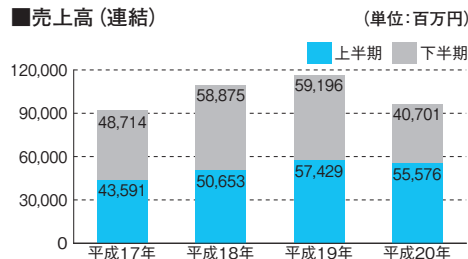
(単位:百万円)



事業別の概況

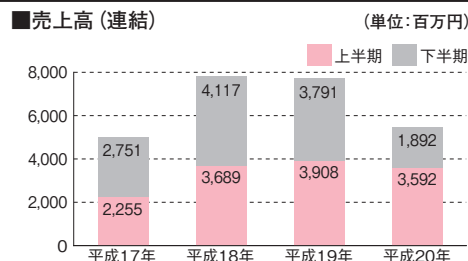
ダイカスト事業

ダイカスト事業におきましては、米国発の金融危機に端を発する需要の減退が欧米から新興国にまで広がり、主要顧客である自動車メーカーの生産調整による急速な受注量の減少の影響で、売上高は96,278百万円(前年同期比17.4%減)となりました。収益面においては、原価低減、経費削減、生産の効率化に取り組んだものの、急速な受注減少に伴う操業度低下の影響により収益性が悪化し、営業損失は2,825百万円(前年同期は営業利益5,019百万円)となりました。



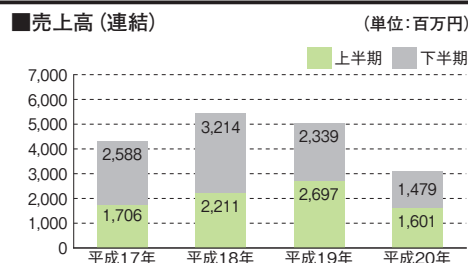
アルミニウム事業

アルミニウム事業におきましては、第2四半期までは主力の自動車産業向け二次合金地金の出荷が堅調に推移しましたが、第3四半期以降の需要および地金市況が急落したことにより、売上高は5,484百万円(前年同期比28.8%減)となりました。収益面においては、第3四半期以降の販売量および地金市況の急落に伴い在庫削減や生産体制の見直しを図りましたが、生産量の減少に伴い収益性が悪化し、営業損失は88百万円(前年同期は営業利益395百万円)となりました。



完成品事業

完成品事業におきましては、国内景気の悪化に伴い主力製品であるアルミパネルの受注を見込んでいた西日本地区での半導体関連の設備投資が中止または延期された影響が大きく、売上高は3,080百万円(前年同期比38.8%減)となりました。収益面においては、売上高の減少に伴う販売費負担増の影響により、営業利益は221百万円(同45.9%減)となりました。



連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期	科 目	当 期	前 期
	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在		平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	33,391	47,391	流 動 負 債	28,132	44,288
現 金 及 び 預 金	7,444	3,962	支 払 手 形 及 び 買 掛 金	13,161	26,977
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	17,118	30,174	短 期 借 入 金	2,219	5,514
商 品 及 び 製 品	1,575	3,311	1 年 内 返 済 予 定 の 長 期 借 入 金	5,574	3,411
仕 掛 品	3,080	4,452	1 年 内 償 還 予 定 の 社 債	—	700
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	1,965	3,341	未 払 法 人 税 等	211	1,113
繰 延 税 金 資 産	616	903	賞 与 引 当 金	907	1,474
そ の 他	1,595	1,258	役 員 賞 与 引 当 金	2	42
貸 倒 引 当 金	△ 6	△ 14	そ の 他	6,055	5,055
固 定 資 産	53,169	54,503	固 定 負 債	24,253	12,306
有 形 固 定 資 産	47,238	46,768	長 期 借 入 金	16,934	4,818
建 物 及 び 構 築 物	9,660	9,145	繰 延 税 金 負 債	3,331	3,132
機 械 装 置 及 び 運 搬 具	20,150	20,574	退 職 給 付 引 当 金	3,281	3,168
工 具 、 器 具 及 び 備 品	3,772	4,705	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	161	196
土 地	5,951	6,078	負 の の れ ん	444	903
リ ー ス 資 産	11	—	そ の 他	98	87
建 設 仮 勘 定	7,692	6,264	負 債 合 計	52,385	56,594
無 形 固 定 資 産	830	877	純 資 産 の 部		
の れ ん	138	297	株 主 資 本	36,882	44,494
そ の 他	692	579	資 本 金	5,117	5,117
投 資 そ の 他 の 資 産	5,100	6,857	資 本 剰 余 金	8,363	8,361
投 資 有 価 証 券	4,531	6,034	利 益 剰 余 金	23,758	31,072
繰 延 税 金 資 産	264	351	自 己 株 式	△ 357	△ 57
そ の 他	312	491	評 価 ・ 換 算 差 額 等	△ 2,765	756
貸 倒 引 当 金	△ 8	△ 20	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	954	1,883
資 産 合 計	86,560	101,894	為 替 換 算 調 整 勘 定	△ 3,720	△ 1,126
			新 株 予 約 権	58	49
			純 資 産 合 計	34,175	45,299
			負 債 純 資 産 合 計	86,560	101,894

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 当期より、財務諸表の比較可能性の観点において、従来のように区分掲記する重要性が低いと判断した科目につきましては、各科目の属する区分の「その他」に含めて表示しております。

■ 連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで
売上高	104,843	129,362
売上原価	98,172	113,165
売上総利益	6,671	16,196
販売費及び一般管理費	9,337	10,375
営業利益又は営業損失(△)	△ 2,665	5,821
営業外収益	816	928
受取利息及び配当金	133	204
負のれん償却額	456	448
その他	225	276
営業外費用	2,416	564
支払利息	312	332
為替差損	2,045	23
その他	59	209
経常利益又は経常損失(△)	△ 4,265	6,185
特別利益	121	669
固定資産売却益	8	596
関係会社株式売却益	—	59
関係会社清算益	100	—
その他	11	13
特別損失	1,346	1,061
固定資産除売却損	230	218
減損損失	711	14
退職給付費用	—	600
早期割増退職金	350	—
災害補償金等	—	60
その他	54	167
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△ 5,491	5,792
法人税、住民税及び事業税	603	2,557
法人税等還付税額	△ 399	—
法人税等調整額	1,076	△ 127
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 6,772	3,363

(注) 1. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. 当期より、財務諸表の比較可能性の観点において、従来のように区分掲記の重要性が低いと判断した科目につきましては、各科目の属する区分の「その他」に含めて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで	平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,404	13,004
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 15,476	△ 15,655
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,841	2,565
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 372	△ 223
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	3,397	△ 308
現金及び現金同等物の期首残高	3,877	4,185
現金及び現金同等物の期末残高	7,274	3,877

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式情報

Stock Information

■株式状況 (平成21年3月31日現在)

株式数および株主数

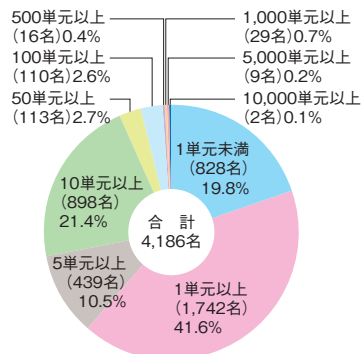
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	21,778,220株
株主数	4,186名

■大株主 (上位10名)

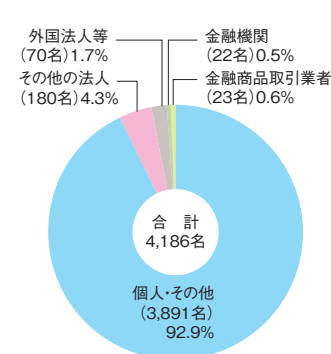
株主名	持株数(株)
モルガンスタンレーアンドカンパニーインク	1,403,462
高橋利江	1,075,647
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	790,100
(株)三菱東京UFJ銀行	765,955
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口4G)	760,100
本田技研工業(株)	672,755
日本軽金属(株)	657,392
ザバンクオブニューヨークジャスティックノントリーティアアカウント	589,300
スズキ(株)	565,767
(株)みずほコーポレート銀行	544,375

■株式の分布状況

所有株式数別株主分布



所有者別株主分布



会社の概要

Corporate Information

■会社概要 (平成21年3月31日現在)

商号	株式会社 アーレスティ
設立	昭和18年11月2日
資本金	51億1,759万円
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	21,778,220株
従業員数	1,041名

企業集団の従業員の状況

	従業員数
ダイカスト事業	3,640名
アルミニウム事業	56名
完成品事業	38名
本社(共通)	203名
計	3,937名

取締役および監査役の氏名 (平成21年6月25日現在)

取締役社長	高橋新
取締役	小木旭
取締役	林禎一
取締役	古屋茂
取締役	宮内忠一
常勤監査役	熊木勉
常勤監査役	見目康夫
監査役	早乙女唯夫
監査役	志藤昭彦

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.ahresty.co.jp/

(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときには、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

○株券電子化によるご注意

- (1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- (3) 配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなりました。従来同封いたしました当社専用の「配当金振込指定書」は今回から同封を取りやめております。振込指定のお手続きにつきましては詳しくは各口座管理機関にお問合せください。
- (4) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



当社ホームページ

<http://www.ahresty.co.jp/>

当社ホームページの「IR情報」では、株主の皆様へ最新情報をお届けしております。あわせてご覧ください。

Research Service Technology

株式会社 **ア-レスティ**

〒164-0011 東京都中野区中央1-38-1 住友中野坂上ビル11F

TEL.03-5332-6001 FAX.03-5332-6037

URL. <http://www.ahresty.co.jp>



ISO14001:2004認証取得

本社、浜松工場、東松山工場、熊谷工場、豊橋工場、テクニカルセンター、株式会社ア-レスティ栃木、株式会社ア-レスティ熊本、株式会社ア-レスティ山形

ISO9001:2000認証取得

JUSE-RA-053
本社(但し、商品営業部を除く)、浜松工場(但し、海外支援室を除く)、東松山工場、豊橋工場、熊谷工場、技術部、株式会社ア-レスティ栃木、株式会社ア-レスティ熊本、株式会社ア-レスティ山形
JUSE-RA-057
商品営業部及び関連組織